

ご挨拶



キッズゲルニカ国際委員会代表
大妻女子大学教授 金田 卓也

キッズゲルニカの活動を始めて 25 年を迎えた 2020 年春にスペインのゲルニカ市より、キッズゲルニカに対して「平和と和解」の賞を授与するという知らせが届きました。この賞は平和構築と和解・人権・社会正義の普及のために、ゲルニカ市等によって 2005 年に創設されたものです。これまで世界各地で平和への願いを大きなキャンバスに描いてきた数多くの子どもたちとその活動を支えてきたさまざまな分野の人たちに対しての受賞だといえます。

授賞式は 4 月に予定されていましたが、日本ばかりではなくヨーロッパでの新型コロナウイルスの急速な感染拡大により参加することができなくなってしまいました。新型コロナウイルスは世界中がひとつにつながっているということを改めて教えてくれました。そして、2022 年 2 月ロシアのウクライナへの軍事侵攻が始まり、いまだ解決の糸口さえ見えない状況が続いています。以前ウクライナで描かれた何枚かのキッズゲルニカの絵は、ロシアの軍事侵攻以降、平和の大切さと戦争の早期終結を願うシンボルとしてスペインやフランス、そして日本各地で展示されています。そうした中、昨年の夏には最近ウクライナから日本に来たばかりの子どもたちも含めた在日ウクライナ人コミュニティによって素晴らしい平和の絵が描かれ、その絵は毎年 8 月に長崎で開催される展覧会でも展示されました。

今回のキッズゲルニカ写真展開催も、長崎の人たちの平和な世界実現へ向けての強い願いの表れであり、より困難な時代であるからこそ、このような地道な努力を重ねていく必要があるように思います。



長崎キワニスクラブ
会長 水嶋 英治

第二次世界大戦後、ピカソはパリ万国博覧会に出展した『ゲルニカ』と同じ図柄のタペストリーを 3 点制作しています。ニューヨークにある国際連合本部の国際連合安全保障理事会会議場前、フランスのウインターリンデン美術館、そして日本では群馬県立近代美術館に展示されています。

長崎はピカソの精神を汲み取り、「ゲルニカ」と「長崎」、「世界」と「長崎」、「平和」と「世界」を結びつけるキッズゲルニカのプロジェクトを推進しています。

未来に向かう子どもたちの創造性を活かしながら、平和に対する思いを全世界に発信していく活動も重要な平和活動です。今回、こうしてのキッズゲルニカ写真展プラス実物展を通して、「平和文化」を生み出すための新たな出発点となることを心から願っています。

私たちの活動は小さいかも知れませんが、世界の子どもたちが「平和」という共通の願いを心に描き、それをキッズゲルニカという目に見える形に描き出す、それを国際交流の「平和の礎」にしていくことは、とても大事な活動だと信じています。

10 年先、20 年先、子どもたちが成長したとき、制作したキッズゲルニカは心の糧となり、平和推進の原動力となることは間違いありません。破壊と暴力、現在でも戦争は起こっています。残念な事ですが、憎しみあいの憎悪の連鎖は続いています。このような時代であるからこそ、若い人たちによる「平和文化」を創造することがより必要だといえるのではないのでしょうか。